



日本代協近畿ブロック
公開セミナー開く

セミナーの様

歴史と映像から学ぶ減災のヒント

日本代協近畿ブロック協議会(服部典正ブロック長)は2月21日午後2時半から、奈良市三条大路の奈良県コンベンションセンターで、公開セミナー「映像に学ぶ減災のヒント」を開催した。奈良、京都、滋賀代協会員、保険会社社員、および一般消費者ら100名が参加した。

奈良に大仏がある理由 朝日放送・木戸崇之氏が講演

日本代協の近畿阪神ブロック小橋信彦地域担当理事とCSR委員



服部ブロック長

会大城拓委員長がそれぞれ冒頭挨拶を行い、服部ブロック長が、「南海トラフにおける大地震発生の可能性が高まっているなか、大災害の混乱時でもお客様様をしっかりと」

学ぶ減災の知恵」のテーマで行った。



講演する木戸氏

奈良や京都で顧客に地震保険を案内すると「昔、都があったところに大きな自然災害は来ない」という反応がまだまだ少なくない。木戸氏は、大仏が完成する20年ほど前の734年に近畿地方に「地、大いに揺れて、庄死せる者多し。山崩れ、川響で大仏の頭部が落下、

1361年東南南海地震で大阪・四天王寺本堂、奈良・薬師寺金堂が倒壊するなどの歴史的事実や、現代のハザードマップでも例えは東大寺周辺は土砂災害警戒区域内にあること、近畿には多くの活断層が存在することなどから、安全な地域であるという認識は誤ったものと言わざるを得ないことを、専門家の意見を紹介しながら力説した。

また関東大震災の被災者自身の記録を紹介するとともに、同氏の働きかけで実現したABCによる「阪神・淡路大震災激震の記録1995取材映像アーカイブ」から当時の生々しい映像を会場に映し出し、それぞれのリアルな被災現場の状況を伝えた。

「家屋の倒壊、火事、知人・家族の安否が分からない、交通途絶、避難路の大海難、水・食料不足、治安の悪化、トイレの環境悪化があったことが分かります。次の都市型震災ではエレベーターに長時間閉じ込められるなど困ることは減るところが増えるでしょう。複数の懐中電灯、食料と水の備蓄、とくにトイレ用のビニール袋は箱買いして能登地震でも問題になっ

いるトイレ環境の悪化に備えることをお客様にお伝えください。映像アーカイブは営利を目的としないイベント等は無料で使ってください。私も先人が残してくれた記録を防災に活かしてもらおうと尽力しますので、皆様にも積極的に活用をお願いできればと思います」と備えの大切さと映像活用による防災・減災活動を呼び掛けた。

最後に滋賀県代協山口裕貴会長が謝辞を述べ、セミナーは終了。終了後のアンケートでも参加者の満足度が非常に高い好評なセミナーとなった。

講演は朝日放送テレビ報道局情報番組「アスクの木戸崇之氏(株)エー・ピー・シー」の出演が「映像に学ぶ減災のヒント」の理由・歴史に